

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連	良くなる	乗用車販売店（役員）	・季節的要因だけではなく、新型車の効果が現れてくるものと期待している。
		通信会社（役員）	・2～3か月先は通信サービスの商戦期にあたり、新規や追加増設の契約が伸びると予想される。
(北陸)	やや良くなる	家電量販店（店長）	・安い商品から付加価値が高い高額商品を購入する事が多くなり、商品単価が上がると思われる。
		乗用車販売店（経営者）	・春先の車検到来数も多くなる時期に入るので、これからは販売、修理部門とも良くなると思う。
		乗用車販売店（従業員）	・毎年恒例の大きなイベントが1月に開催されるので、新規の顧客などを大いに期待している。
		旅行代理店（従業員）	・北陸新幹線効果の継続が見込める。競合となる函館が、新幹線開業後も東京から4時間強との発表を受けて、更に加速がつく。
		通信会社（営業担当）	・新入学生向けの販売が増えることが予測される。またその家族も一緒に購入する傾向があるので期待している。
		住宅販売会社（従業員）	・厳しい状況は続くが、消費税率アップを控え、受注は上向いていくと予想している。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税増税の話も出て、少しずつ来客数の動きに変化が見えると思う。
		変わらない	商店街（代表者）
		商店街（代表者）	・2～3か月先までは、特別な変化は見込まれない。強いて言えば、撤退した百貨店の跡地で再開工事が始まったので、近隣の店舗に少し影響がでるかもしれないと思う。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	・北陸新幹線効果もまだ続き、観光客も多いのだが、材料費その他の食品における値上げがあることから、今後どうなるかは不透明である。
		一般小売店〔事務用品〕（店員）	・年度末の需要期に向け、商談件数や店舗来店件数は増えているが、購入まで結びついている感があまりない。
		一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	・年末年始を過ぎないとはつきりは言えないが、今のところ悪くなるような要素はない。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	・売上が伸びる要素はなく、しばらく現況と変わらないだろう。
		百貨店（売場主任）	・地方气象台発表の3か月予報によると、平年に比べて気温は高く降雪量は少ない見込みとのことであり、防寒素材は引き続き苦戦すると予測する。
		スーパー（店長）	・現状を考えると、この先も特に環境が変わらない流れなので、変化がないと考えている。
		スーパー（店長）	・天候の状況の影響もあるが、際立っての景気の好転はあまりないように思う。年末、正月期間と、今年は休みの期間も短く、その分の落ち込みも考えられる。
		スーパー（総務担当）	・北陸新幹線効果が続き、人手不足の状況が続いている点は経営する立場で懸念材料であるが、売上は安定しており、3月くらいまではこの状況が続くと思っている。
		コンビニ（経営者）	・劇的に変わる要素は見当たらない。同業者が飽和状態なので、1つのパイを多少の変動がありながら奪い合う状況がこのまま続く。
		衣料品専門店（経営者）	・売上の減少が止まらず、先行きの不透明感が否めない。大変厳しい状況である。
		自動車備品販売店（従業員）	・ガソリン単価の下落、新車販売の低迷など明るい兆しが無い。唯一、ドライブレコーダーは需要も高く、前年ベースからの伸びは良いが、単価が低い商品のため更なる数量拡大が課題であるものの、急激な拡大は期待ができない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕	・例年並みの寒さにならず、衣料が大変厳しい状態が続いている。暖冬で、鍋食材などまとまった需要が弱い様子である。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・冬物バーゲンや初売、福袋の商戦については、大型商業施設の出店による分散化傾向が懸念される上、既存施設のイベントも例年になく強化されている。大変な苦戦が予想される。
		一般レストラン（店長）	・予約状態から見ると一本調子で上向くとは考えられない。
		観光型旅館（経営者）	・北陸新幹線開業の影響が薄れつつあるが、3月までは大手旅行会社の全社キャンペーンがあり、前年を割り込むことはないと思われる。
観光型旅館（スタッフ）	・予約状況は12月以降120～130%で推移している。		

	都市型ホテル（スタッフ）	・春から北陸新幹線効果で伸びてきたが、初めての冬を迎え、観光客の動きが予約状況からでは現状分らない。正月は曜日の関係で休日も少ないので、予約総人数は前年より少ない。
	都市型ホテル（役員）	・宿泊部門の傾向は今後も変わらず、レストランの個人利用と宴会部門の法人利用は、まだ回復には至らないと想定される。
	タクシー運転手	・暖冬のため足場が良いので、利用客数が少なく売上が伸びない。
	通信会社（職員）	・まだ契約件数への大きな影響はないまでも、転居や死亡、また施設入居によって空家になる場合など、解約理由が高齢化や人口減少につながっているであろう比率が高くなってきている。
	通信会社（営業担当）	・販売量は前月と比較し同水準となっているが、季節要因でやや売上は減少している。ただし、1人あたりの客単価はそれほど変動がない。
	その他レジャー施設（職員）	・入会者や利用者は冬季間減小するが、幸い燃料代が下がっているのが救いである。
	住宅販売会社（従業員）	・職人不足や技術者不足がここにきて顕著であり、安定した工期の確保、平均化した日程を組むことができなくなり、業績面に与える影響は必至である。懸念材料になっている。
やや悪くなる	百貨店（営業担当）	・この暖冬がまだまだ続くということと、もう一つの側面として、北陸新幹線の影響でファッション関係は新幹線で東京に行って買おうという客の声が多いため、暖冬に加えて交通アクセスの変化によって、この冬あるいは来年の初売のバーゲン品は、おそらく苦戦するだろうという予測である。
	百貨店（営業担当）	・景気が上向くような要因が見当たらず、客が必要な時期にならないと買わないという傾向が強いため、厳しくなると予想する。
	スーパー（総務担当）	・来客数が伸びない状況が続く中、今後も競合店の出店が予想され小売業は更に厳しくなる。
	コンビニ（経営者）	・売上は前年並みを維持しているが、店のスタッフの人員費が高騰している。それにより、収入では減少する方向に向かっている。
	コンビニ（店舗管理）	・人手不足基調を春から抜け出そうと、パート、アルバイトの時給相場は上昇が予想される。人員費アップを吸収する方策が見当たらない。
	衣料品専門店（経営者）	・当地の小売業界でも景気が良いところがあり、市の郊外にある大型ショッピングセンターの出入は、市内唯一のデパートの10倍くらいある。当地で元気のある店はコンビニ、駅ナカ、ショッピングセンターであり、それ以外はどこまで生き延びられるかの運試しという状況ではないか。
	家電量販店（店長）	・暖冬の影響が大きく、季節商材の実績が伸びておらず、来客数にまで影響が出ている。
	住関連専門店（店員）	・世間で話題になっているように、次回の消費税増税を意識する消費者も少なくはなく、嗜好品や耐久消費財への消費はますます落ち込むことが考えられる。
	その他専門店〔酒〕（経営者）	・とにかく、景気が良くなってきているという兆しが全くみえない。景気がこれからまた悪くなっていくのではないかと思われるくらいである。客との話でも、そうした感じが伝わってくるというのが、今現在である。
	高級レストラン（スタッフ）	・大型宴席の受注が例年並みであることから、春から継続している好業績も一服することが予想される。
	一般レストラン（統括）	・輸入食材、国産野菜が値上がりする反面、メニュー売価を変える大きな理由がないため売価改定が難しく、徐々に利益圧迫度合いが強まっている。軽減税率導入の発表後、さらに今後の見通しは悪くなるとみて、対策に動き始めた。
	スナック（経営者）	・やはり国内外の不安定要因で厳しくなる可能性があると思う。
	旅行代理店（所長）	・北陸新幹線開業による特需取扱が多く受注された分の落ち込みが懸念される。
	タクシー運転手	・今月は月初めから忘年会が多く、良過ぎた反動でやや悪くなると思う。
	通信会社（役員）	・政府からの携帯通信料金引下げの要請を受け、大手通信キャリアの通信プランの見直しが進む見通しである。この動きは格安携帯、スマホ提供事業者にとって新規契約数の減少を招くとみている。
住宅販売会社（従業員）	・分譲地は日当たりよりも価格の安いものから売れていき、住宅価格も安い商品から売れていく状況である。今後ますます価格の安い物が選ばれるようになると思う。	

	悪くなる	商店街（代表者）	・今まで比較的好調だったネット通販でさえ売上不振が続いている。その昔一世を風びしたカタログ販売のように、この不景気で淘汰されていくのだろう。消費税増税前の盛り上がり期待するしかない。
		コンビニ（店長）	・人手不足による悪循環のため経費が急増している。年末だからではなく1年を通じて深刻な問題となっており、これから数年間どうやって経費をコントロールしていくか模索中である。以前同様の経営では成り立たない時代となってきた。
企業 動向 関連 (北陸)	良くなる	-	-
	やや良くなる	化学工業（総務担当）	・今後の受注量は、増加の予定である。
		通信業（営業担当）	・セキュリティーに関わるシステムが好調である。各企業もマイナンバーの運用で意識が高くなっているものと思われる。
		司法書士	・国体関連の建設工事などがあり、建設業許可更新の際の決算書の数字が全てにおいてこれまでより良かった。今後も国体関連や駅前の再開発事業が続くため、景気はやや良くなるのではないが。
	変わらない	食料品製造業（役員）	・今後2～3か月もそうだが、米国の利上げもあり来年にかけて円高傾向になるといった変化が起きるとは考えづらく、変わらないと思われる。
		繊維工業（経営者）	・国内消費の低迷で、受注の先行きが見えにくい状況が続くと思われる。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	・軸足を置く住宅市場は、新設住宅着工数において春以降順調に伸びてきていたが、10月になって前年割れの状況である。特にマンションは9月以降厳しい状況が続いている。持ち家の伸びとマンションの減少が今後どのように影響してくるか判断しづらい。
		金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の分の注文の入り具合をみて、そのように思った。
		精密機械器具製造業（経営者）	・営業からの情報では、春先に向けた仕入状況も抑え気味の客先が多く、全体の市況としては厳しい状況が続くと思われる。
		輸送業（配車担当）	・今後急速に上向くとは思えない。
	金融業（融資担当）	・企業の資金需要はやや弱まっているが、極めて低い水準とまでいえない。強弱感が対立している。	
	新聞販売店〔広告〕（従業員）	・全体的にチラシ出稿量は増えてきている感はあるが、サイズダウンしての出稿なので売上の前年を超えない状況である。来年以降もこの状況は続くのではないと思う。	
	やや悪くなる	一般機械器具製造業（総務担当）	・アジア市場には直接当社の機械受注はないが、アジア市場に依存している会社の設備投資が落ちている。この影響で各市場とも受注が伸びないと思われる。
		建設業（経営者）	・当県における今年度の公共事業の発注が、前年比で全国的にも最低水準で、各業者は手持ち工事が不足している。新年に入ってから第4四半期の発注は期待できず、活況とはならないだろう。
		建設業（総務担当）	・大都市以外では工事発注量の減少が続くと思われ、今後は受注高確保を目的とする価格競争が、一段と厳しさを増すと見込まれる。
		金融業（融資担当）	・中国の景気後退から、日本経済の景気も先が見通せない。消費税増税など消費者心理は悪い。
		不動産業（経営者）	・同業者関係の情報では、法人関係の動きは二極化しているということだが、個人客の問い合わせがかなり減ってきている。
		税理士（所長）	・これから先は日本の社会というのは大企業も中小企業も同じで、アメリカや中国など海外にかなり左右されることが多いと思う。これから先もいろいろな海外の不安要因があり、決してプラスのところが多いとは思われず、やや厳しくなるのではと思う。国内的には、仕事で客の給与計算をしてもサラリーマンの実質的な所得が上がっていないというのがわかり、その点がより上がらないと厳しいのではないかと思う。
	悪くなる	-	-
雇用 関連 (北陸)	良くなる	-	-
	やや良くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・年末年始の求人特集について、件数は120%、金額で140%と大きく伸びた。業種的に見ても人手不足感が全体としてのトレンドではなく、足りない業種や職種が限定されていると考えられる。そうした業種が今後も業績が伸びる可能性が高いことはプラス要因ではないか考える。
		職業安定所（職員）	・新規求職者数が前年同月比で減少が続く中、新規求人数が7か月ぶりに前年同月比でプラスに転じた。

	職業安定所（職員）	・製造業を中心に、受注、仕事量の増加が見込まれる。また、設備投資なども増えているとの話も、よく聞くことができる。
	学校 [大学]（就職担当）	・アメリカの金融政策も方向性が定まり、中国経済も縮小傾向であるが安定している。また、原油安と中東情勢もテロの危険性は高いが、今のところ大きな問題もないなど国際情勢が安定している。
変わらない	人材派遣会社（役員）	・有期契約の案件に対して、長期的な展望に立ってやってみようという求職者の前向き姿勢が見受けられない。
	人材派遣会社（社員）	・あらゆる職種で人手不足に加えて、人材の需要と供給の深刻なミスマッチが起きている。
	求人情報誌製作会社（編集者）	・大きな雇用に関わる話が出てこない。
	職業安定所（職員）	・業績が良くなるという事業所がある一方で、依然として先行きを不安視している事業所もある。
	民間職業紹介機関（経営者）	・労働者派遣法の施行後、企業の採用担当は派遣雇用を控えている向きがうかがえる。
やや悪くなる	-	-
悪くなる	-	-